

第6回JNTO同窓会開催報告

日 時：2017年12月2日（土） 11：30～15：00

場 所：慶応大学三田キャンパス南校舎3F [萬来舎]

参加者：川井仁史、山之内保、塩沢潔、石井昭夫、北出明、末松睦子、井久保敏信、
谷口せい子、日紫喜幸子（年次順・9名）

次 第：

1. 代表幹事挨拶（北出）

- ・今回は旧東海道に今も存在する幕末以来の料亭田中家（安藤広重「東海道五十三次」に描かれている「さくらや」がそれ）の女将に講師として来てもらう予定だったが、急に従業員が辞められてキャンセルになったため、石井さんに代役を依頼した。
- ・今後も内部の人、外部の人で適当な方に講師になってもらって話を聞くやり方を試みたい。ただし、謝礼や遠方からの方の交通費まで出せるほどファンドは溜まっていけないので、外部の方をお願いするにしても名目的な額でという条件になる。
- ・本日の出席者は9名、講師は石井さん、題目は「日本のインバウンド創世記：JNTOのルーツを求めて」。そのあとでJNTOの事業活動について、ご案内の項目について意見交換を行います。

2. 「日本のインバウンド創世記：JNTOのルーツを求めて」（概要）

配布資料（添付）

- （1）「インバウンド観光発展史目次」（交通新聞社新書用ーダメになったけどーの原稿の目次）
- （2）「日本のインバウンド関連年表 1853～1945」

配布資料を参照しながら政府観光局の誕生と戦前までの歴史を説明。

1. 人的国際交流ゼロの江戸時代から明治維新を経て西欧化に進むが、不平等条約によって領事裁判権下（治外法権）にある代償として、外国人は居留地以外に居住することを認めず、その周辺10里程度までの遊歩区域の外に旅することを禁じていた。
2. 内地旅行免状の時代：1874～1899
1874（明治7）年に保養・研究等の目的に限って、申請すれば内地（遊歩地域外）に旅行できる制度を導入。外国人の国内旅行を歓迎する政策の余地はなかった。
3. 喜賓会の時代：1893～1912
1894年に日英通商航海条例調印。不平等条約が改正され（発効は1899年予定）、国内旅行が自由化される見通しになり、渋沢栄一、益田孝ら民間のイニシアティブと宮内庁の支援により「喜賓会」が設立される。貴賓会は世界初のNTOとして活動するが、重要な資金源の私鉄が国有化されて立ち行かなくなる。
4. ジャパン・ツーリスト・ビューロの時代（1912～1930）
日清、日露の戦争で、日本は朝鮮・満州を支配下に置いて大陸に進出。国内では鉄道を国有化して鉄道院が誕生。鉄道院が新しいNTOとしてジャパン・ツーリスト・ビューロを設立。しかし、ビューローはまもなく旅行業への道を歩む。ビュー

ーローは唯一のインバウンド旅行業者、最大のアウトバウンド業者かつ国内旅行業者となる。アジアへの進出で名前も「東亜旅行社」と改称。

5. 国際観光局&国際観光協会の時代（1930～1948）

ビューロー自体が NTO の新設を提起し、別途観光全体を監督する行政部局が必要と認められ、鉄道省（1920 年に誕生）に国際観光局を設置。また、民間から賛助金と事業協力を得るために半官半民の国際観光協会を設立した。ただし組織は一つ。事務局は役所内にあり、職員は 2 足のわらじで両方の職員を兼務していた。

6. 第二次大戦がはげしくなり、国際観光局（1942 年）と国際観光協会（1943 年）を廃止し、東亜旅行社にすべてを引継いで解散。合併後名称は「東亜交通社」へ。

話の材料とした「日本のインバウンド発展史」（第 1 部第 1～2 章）は 80 頁くらいになるが、ご希望の方にはメール添付で提供します（石井）。

3. NTO の調査・統計、外客受入対策、外国での個人的体験などについて（順不同）

- *メキシコ時代に訪日旅行をやりたいという旅行業者から広告費の負担を求められ、大した額ではないので本部に申請したけど、どうしても許可してもらえなかった。他国の事務所はやってるのに残念だった（塩沢）。当時は役所的発想で、一業者に国が協力するのはまずいという考え方があった。
- *協力宣伝の成果でメキシコのヴォーグが丸ごと日本特集をやってくれた。大成功だったので本部に送ったけど反応なし。スペイン語では見てもらえなかったのは残念だった（塩沢）。この点は英語以外の言葉でも同じ。
- *言葉での苦労話しや失敗談、外国語をめぐるユーモラスな逸話多数紹介。
- *中級ホテルの調査というのをやった。ホテル協会のメンバーは 80 社くらいだったが、「観光経済新聞」に 2～300 のホテルが掲載されていた。入社したばかりの井久保君とアンケート内容を工夫して送付、回収して *Hotels in Japan* をつくった。低廉洋式宿泊施設が不足して困っていたことへの対策だった（北出、井久保）。
- *ジャパニーズイン・グループの果たした役割は大きかったけど、今はグループを通さないチャネルが出来て、会員も減ってきている。JIG についていろいろな話題。
- *昔の障壁は言葉だった。今の受対の問題は過剰の観光客とそのマナーなど。生活習慣の違いを周知させることを考えるべき。見本の下の商品をあけて食べてしまうとか、トイレの水流さないとか、単に知らないからという行為も多い（谷口）。
- *トイレ談義あれこれ。今の日本人の若者に中にはウォシュレットがないから海外旅行しないという人までいる。
- *消費額調査など空港調査を 10 年やった（谷口）、その実際について知りたい（石井）
- *調査事業が観光庁に移管されているが、これは JNTO にとっては不幸。
- *その他、インバウンドの過去と現在について時間一杯懇談、雑談、放談。

4. 次回の会合

土曜日の昼間がベターとされ、会場予約との関係で下記の通り決定。

日 時：2018 年 2 月 24 日（土） 11：30～15：00
場 所：慶応大学三田キャンパス南校舎 3F [萬来舎]

（文責：石井昭夫記録担当幹事）